



各位

会社名株式会社エクサウィザーズ

代表者名 代表取締役社長 石山 洸

(コード番号:4259 東証グロース)

問合せ先 執行役員コーポレート統括部長 奥野 浩平

(Tel: 03-6453-0510)

# 通期業績予想の修正及び営業外収益・特別損失の計上に関するお知らせ

当社は最近の業績の動向等を踏まえ、2021 年 12 月 23 日に開示した 2022 年 3 月期通期(2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)の連結業績予想を修正しました。また当第 4 四半期において、営業外収益と特別損失を計上する見込みですので、お知らせいたします。

#### 1. 連結業績予想数値の修正

(1) 2022 年 3 月期の通期業績予想の修正(2021 年 4 月 1 日~2022 年 3 月 31 日)

	売 上 高	売上総利益	営業利益	経常利益	親会社株主に帰	1 株 当 たり
					属する当期純利益	当期純利益
	千円	千円	千円	千円	千円	円 銭
前回発表予想(A)	4,738,000	2,819,000	△180,000	△75,000	△95,000	△1.24
今回修正予想 (B)	4,810,000	3,049,000	△201,000	△97,000	△137,000	△1.79
増 減 額(B-A)	72,000	230,000	△21,000	△22,000	△42,000	△0.55
増 減 率 ( % )	1.5%	8.2%	△11.7%	△29.3%	△44.2%	△44.4%
(参考) 前期連結実績 (2021 年 3 月期)	2,612,944	1,661,600	△508,339	△451,345	△592,688	△8.04

# (2) 業績予想修正の内容・理由

#### (市場環境と足元業績の見通し)

当社グループが事業を展開するデジタル・トランスフォーメーション(DX)及び AI 活用に係る領域では、DX の推進にむけての企業投資意欲が高まっており、引き続き顧客企業から旺盛な新規受注が期待できる良好な事業環境となっています。このような環境下にあって、当社の 2022 年 3 月期第 4 四半期の業績は過去最高の売上高となり、また営業利益は黒字を計上する見込みです。

# **W** EXAWIZARDS

(売上高、売上総利益)

上記のように第 4 四半期の業績が好調であることを受け、通期の売上高は 4,810,000 千円(対直近業績予想比 +72,000 千円、+1.5%)、売上総利益は 3,049,000 千円(対直近業績予想比 +230,000 千円、+8.2%)となる見込みです

(営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益)

東証マザーズ(現、グロース)への上場に伴い、当社の知名度向上等により採用競争力が高まりました。これに合わせ「exaBase」の研究開発体制の一層の強化を目的として、技術部門での採用を前倒しで実行した結果、採用費・人件費が当初予想より増加しました。これにより、営業損失は 201,000 千円(対直近業績予想比 $\triangle$ 21,000 千円、 $\triangle$ 11.7%)、経常損失は助成金収入の計上等により 97,000 千円(対直近業績予想比 $\triangle$ 22,000 千円、 $\triangle$ 29.3%)となる見込みです。

親会社株主に帰属する当期純損失は一部ソフトウェアの減損損失を計上する見込みであること等により、137,000千円(対直近業績予想比△42,000千円、△44.2%)となる見込みです。

助成金および減損損失の内容は、後段2及び3をご参照ください。

当社は中長期的に継続的な売上高成長を達成していくため、今後も「exaBase」を中心とした事業基盤及び人員体制への投資を強化してまいります。

# 2. 営業外収益の計上

当社は2022年3月期決算において、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクト「Connected Industries 推進のための協調領域データ共有・AI システム開発促進事業/業界横断型 AI システムの開発/マルチモーダル AI 技術を用いた業界横断型 AI システムの事業開発」並びに新潟県のプロジェクト「アフターコロナを見据えたイノベーション創出支援事業」の助成金として、合計93,530千円を営業外収益に計上する見込みです。

# 3. 特別損失の計上

当社は 2022 年 3 月期決算において、AI プロダクト事業における事業用資産のうち収益性の低下した一部のソフトウエアについて、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、53,400 千円の減損損失を計上する見込みです。当減損処理を行う事によって将来の費用負担を軽減するとともに、事業の早期成長を推進してまいります。

(以上)